

おら^{どお}Doの協^{きょうどう}Do!

～人と人が集まり、出会いとつながりが
広がる中で生まれる「おもっせえ」おおつち～

協働による地域・まちづくりを実践し、
人と人との出会いやつながりを生み出
している「おもっせえ」人や活動を紹
介します。みんなやっべし協働！

歴代の大槌高校生たちがつないだ10年の活動 復興研究会定点観測は「時代を超えた協働」

大槌高校復興研究会定点観測班が防災功労者内閣総理大臣
表彰を受賞し、9月16日（金）、町長へ報告しました。東日
本大震災後、2013年から継続して、復興する町の姿を写
真などで記録してきた活動が高く評価されました。

生徒たちは「地域の人もたくさんの人たちの協力のおか
げでこの活動ができています。先輩たちの代からずっと続けて
きたことがすごい事だと思っし、昔を知って、これからを考
えるために意味のある活動だと思っして参加している」と活動
への意欲を語ります。顧問の木村有里先生は、生徒、教員、
地域住民、役場や大学、復興工事の事業者など、多くの人と
の関わりで成り立っていると話し、この活動を「カメラのリ
レー」と表現しました。

10年にわたる定点観測は、1年ごとの成果をただ並べてい
るだけではありません。それぞれの代の生徒たちは、次の代
へつなげる意識、前の代から引き継ぐ意識をしつかりと持ち、
最初から現在まで全てが合わさって一つの活動だと理解して
継続してきました。こうしてつながった「カメラのリレー」は、
学校と地域、地域と事業者を結び付け、被災から立ち上がる
うとする町に活力を与える役割も担いました。現在では、復
興における町の変化を刻んだ貴重な資料にもなっています。

それぞれが自分のする事だけに目を向けず、それらを合わ
せて一つの事を成し遂げることは、協働のあり方そのもので
す。歴代の大槌高校生がつないできたリレーはまさに「時代
を超えた協働」と言えます。皆さんの地域や家庭の周りにも、
先人の思いを汲み、次代の幸せを願っ、そんな「時代を超え
た協働」がたくさんあるのではないのでしょうか。



高校生と協働で取り組むことがまちづくりの糧に



大槌町上下水道課

木下 亮 さん
きのした りょう

大槌高校卒業生で、復興工事
担当職員として活動に参加

活動では、復興工事の関係でサポートしたり、震災
前の町の事を話したりしてきました。今回の受賞は、
年数が経って変わっていく街並みをメンバーが変わり
ながらも記録し続けてきた、そのつなぎ方、残し方が
評価されたと思います。高校OBとしても、震災前
には中々無かった、自分たちで町を見て考える時間を持
っている在校生は素晴らしいと感じています。これか
らでもできる限り一緒に活動を続け、自分の仕事、これ
からのまちづくりにも活かしていけたらと思います。

活動の詳細は16ページ
大槌高校だよりで紹介！

大槌高校復興研究会の
定点観測はこちらから

